

## 就学前(5~6歳)のお子さんを持つ保護者の方へ

# 百日咳の感染から守るために 予防接種を受けましょう

監修：岡田 賢司 先生(福岡看護大学 基礎・基礎看護部門 教授)



### 百日咳患者の発生状況

- 0歳児の百日せき含有ワクチン未接種児および7歳をピークとした5~15歳の子どもたち、また40歳代の成人に患者が多く認められています。
- 6か月未満児への感染源は、兄弟がもっとも多く、次いで両親、祖父母でした。
- また、2000年以降、年長児・青年・成人患者の報告数が増加し、これらの年齢層の患者が、重篤化しやすい乳児への感染源にもなっています。

#### 百日咳に罹患した 6か月未満児の感染源(重複あり)

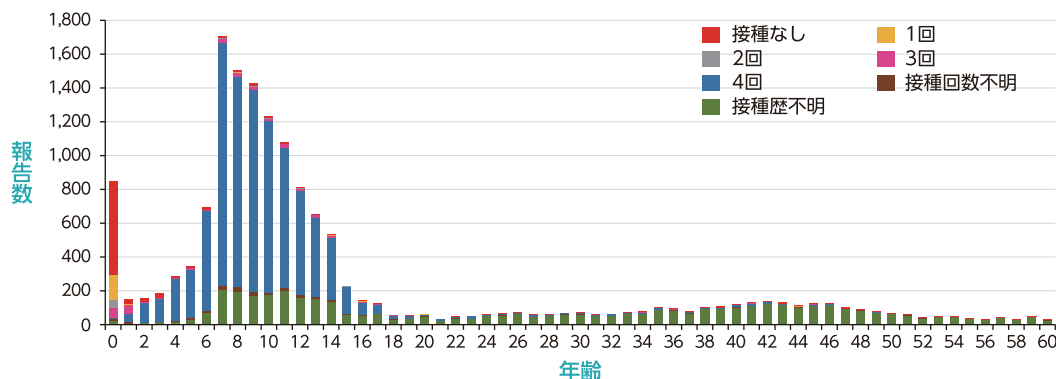
推定感染経路	患者数 (重複あり)	%
母親	109	14
父親	145	19
兄弟	294	38
祖父母	45	6
家族内その他	27	4

乳児の百日咳患者の約70%は、**母親、父親、兄弟**などの家族が感染源となっています。

家族内その他の内訳：いとこ(10)、おば(7)、おじ(7)、甥または姪(3)  
上記以外：家族内不明 151(20%)、その他 7(1%)、不明 136(18%)

国立感染症研究所 2019年第1週から第52週\*までにNESIDに報告された百日咳患者のまとめ(n=771)  
(2019年第52週週報データ集計時点) \*第1週~第52週(2018年12月31日~2019年12月29日)  
<https://www.niid.go.jp/niid/images/epi/pertussis/pertussis-200306.pdf>

#### 百日咳症例の年齢分布と予防接種歴(2019年第1週~第52週)(n=15,974\*)



\*百日咳 感染症法に基づく医師届出ガイドライン(初版)に則った症例に限定

国立感染症研究所 感染症疫学センター・同細菌第二部：全数報告サーベイランスによる国内の百日咳報告患者の疫学(更新情報)  
-2019年疫学週第1週~52週-2020年1月8日現在(掲載日:2020年3月6日)より抜粋  
<https://www.niid.go.jp/niid/ja/pertussis-m/pertussis-idwrs/9463-pertussis-20200306.html>

## 百日咳とは

百日咳菌によって起こる急性の気道感染症です。百日せき含有ワクチン未接種の乳幼児や接種後年数が経過し、免疫が減衰した人が感染すると、風邪のような症状ではじまり、息が吸えないくらいのひどい咳が続く病気です。熱はそれほど出ません。しかし、新生児・乳児期では、咳で呼吸ができず、けいれんを起こすことがあり、また肺炎や脳症などの命にかかわる重い合併症を起こすこともあります。

### 百日せき含有ワクチンの接種スケジュール

#### 乳幼児期(0~1歳)

0歳時に3回の接種で免疫を獲得し、1歳時に1回の追加接種を行います。

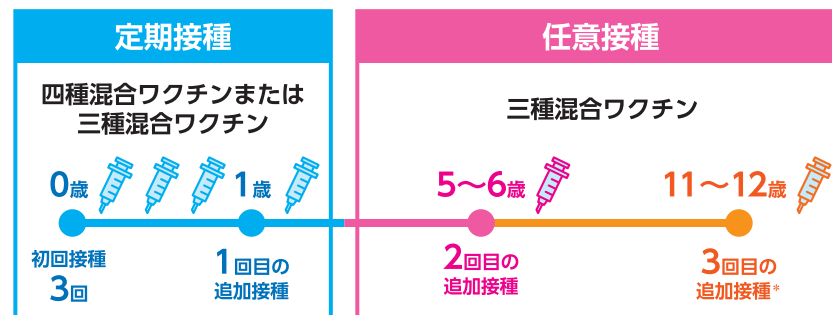
#### 就学前(5~6歳)

5~6歳の間に任意接種として、2回目の追加接種を行うことが推奨されています。

#### 小学生高学年(11~12歳)

11~12歳の間に任意接種として、3回目\*の追加接種を行うことが推奨されています。

\*百日咳の予防を目的に、定期接種である二種混合ワクチン(DT)の代わりに三種混合ワクチンを接種することができます。



参考：日本小児科学会が推奨する予防接種スケジュール(2020年1月改訂版)  
[http://www.jpeds.or.jp/uploads/files/vaccine\\_schedule.pdf](http://www.jpeds.or.jp/uploads/files/vaccine_schedule.pdf)

# 百日せき含有ワクチン Q & A



## Q なぜ百日せき含有ワクチン(三種混合ワクチン)を5～6歳児に追加接種するのですか？

近年、日本や多くの先進国で年長児や成人の百日咳の流行が報告されています。これは、ワクチン接種による発症予防効果が数年で次第に低下してくることと、百日咳菌との自然感染が少なくなり免疫力を高められる効果が得られなくなったためであると考えられています。

参考：国立感染症研究所 百日せきワクチン ファクトシート 2017年2月10日報告  
<https://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-10601000-Daijinkanboukouseikagakuka-Kouseikagakuka/0000184910.pdf>

## Q 百日せき含有ワクチン(三種混合ワクチン)の追加接種には費用がかかりますか？

5～6歳で追加接種する百日せき含有ワクチン(三種混合ワクチン)は任意接種ですので、全額自己負担となります。ただし、自治体によっては、補助が出る場合がありますので、お住まいの自治体にご確認ください。

## Q 百日咳はどのように感染するのですか？

百日咳は感染力の強い疾患です。百日咳患者の咳による飛沫感染が主な感染経路で、接触感染によっても感染することがあります。

## Q ほかのワクチンと同時接種しても大丈夫ですか？

複数のワクチンを同時に接種しても、それぞれのワクチンを単独で接種したときと効果が変わることはなく、かつ副反応の発生頻度が増えることはありません。また、同時接種において、接種できるワクチンの本数に原則制限はありません<sup>1)</sup>。

就学前にはMRワクチン(2回目接種)が定期接種となっていますが、利便性を考え三種混合ワクチンとの同時接種が推奨されています<sup>2)</sup>。

1) 日本小児科学会 日本小児科学会の予防接種の同時接種に対する考え方 2011.1.19登録、2014.1.12更新  
[https://www.jpeds.or.jp/uploads/files/saisin\\_1101182.pdf](https://www.jpeds.or.jp/uploads/files/saisin_1101182.pdf) (2020年2月24日閲覧)  
 2) NPO法人 VPDを知って、子どもを守ろうの会：子どものVPD 百日せき  
<http://www.know-vpd.jp/vpdlist/hyakunichi.htm> (2020年3月17日閲覧)

## コラム 日本と各国の百日せき含有ワクチン接種スケジュール

- 日本での百日せき含有ワクチン接種は初回接種として生後3か月より3回、小児期の追加接種として生後12～23か月で1回実施されています。
- 海外では、日本で接種されている年齢に加え、小児期や青年期でのさらなる追加接種を推奨している国や、妊娠時の接種を推奨している国もあります。

国名	初回接種 年齢・月齢	小児/青年 追加接種 年齢 (ワクチンの種類)
日本	3, 4, 5～11か月	12～23か月
オーストラリア	2, 4, 6か月	4歳 (DTaP) + 11～17歳 (Tdap)
カナダ	2, 4, 6か月 + 18か月	4歳 (DTaP) + 12～16歳 (Tdap)
デンマーク	3, 5, 12か月	5歳 (DTaP)
ドイツ	2, 3, 4か月 + 11～14か月	5～6歳 (DTaP) + 成人 (Tdap)
アメリカ	2, 4, 6か月 + 15～18か月	4～6歳 (DTaP) + 11～12歳 (Tdap)

DTaP：沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン Tdap\*：青年・成人用破傷風・ジフテリア・百日せき三種混合ワクチン  
 ※本邦未承認

WHO SAGE pertussis working group Background paper SAGE April 2014より一部引用し作成、国立感染症研究所：IASR 2017:38:37-8、<https://www.niid.go.jp/niid/images/iasr/2017/02/444r09t01.gif>